

## 中西弘樹<sup>1</sup>：青森県にグンバイヒルガオとハマナタマメの漂着発芽の新北限

Hiroki NAKANISHI<sup>1</sup> : Seedlings from sea-borne seeds of *Ipomoea pes-caprae* (Convolvulaceae) and *Canavalia lineata* (Favaceae) in Aomori Prefecture, northern Honshu, Japan

グンバイヒルガオ *Ipomoea pes-caprae* (L.) Sweet とハマナタマメ *Canavalia lineata* (Thunb.) DC. は海流散布植物として知られ、それらの分布の繁殖圏を超えて、種子が海流で散布され、発芽することが知られている(中西 1987, 2008)。それらの北限は山形県飛島であった(森 1952, 1954)。筆者は、2016年7月に青森県津軽半島西海岸の同じ地点で両種の発芽個体を発見した。いずれも漂着発芽の新たな北限であるので記録しておきたい。

**生育地点** 発見したのは、2016年7月29日、青森県五所川原市市浦地区(旧北津軽郡市浦村)、十三湖の西海岸の砂浜で(Fig. 1, 北緯41°02')、所々砂浜の浸食を防ぐためにすぐ沖にはテトラポッドが置かれてある。漂着物が打ち上げられたゾーンは汀線から約10m離れた付近に、多くの木片、漁網、プラスチック類の破片、貝殻などが集積しており、そこにグンバイヒルガオとハマナタマメの芽生えそれぞれ1個体ずつが約8m離れて生育していた。その間に漂着発芽していた植物種とその個体数は、オカヒジキ *Salsola komarovii* Iljin 9個体、オニハマダイコン *Cakile edentula* (Bigelow) Hook. 3個体、ハマヒルガオ *Calystegia soldanella* (L.) R. Br. 2個体であった。その他、漂着していた果実は多くのオニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitam., ブナ *Fagus crenata* Blume の殻斗で、少し離れた地点にはココヤシ *Cocos nucifera* L. の果皮が発見された。ココヤシはすでに誰かに拾われ、割られたらしく、外果皮が散らばっていた状態であった。

**生育状況** グンバイヒルガオ (Fig. 2) の1つの子葉は、長さ19mm、幅20mm、鮮緑色、葉柄は赤褐色であり、ハマナタマメ (Fig. 3) は長さ33mm、幅43mmで、濃緑色で、やや光沢があり、葉柄は濁黄緑色であった。いずれもやや小さかったが、発芽して1ヵ月以内の個体と思われ、これから気温が上昇するにつれて、成長するものと思われる。

**考察** 対馬暖流によって北上した南方からの海産動物が、最近になって北海道沿岸で記録されることが多くなっており、その一因として冬季海面水温の高温傾向や対馬暖流の勢力拡大との関連が示唆されている(圓谷・鈴木 2014; 鈴木 2008, 2010; Suzuki et al. 2012など)。一方、グンバイヒルガオの繁殖圏が地球温暖化によって北上していることも知られている(中西 2011)。今回、青森県で発見されたグンバイヒルガオとハマナタマメの漂着発芽個体の発見は、それら事実と同じ原因と考えられ、今後さらに北上し、北海道の日本海側海岸にも発見される可能性を示唆している。

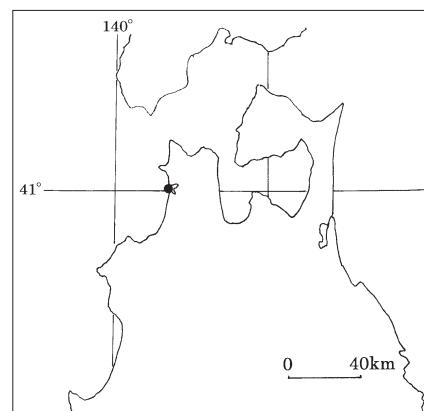


Fig.1 Map showing the locality (●).



Fig.2 *Ipomoea pes-caprae*.

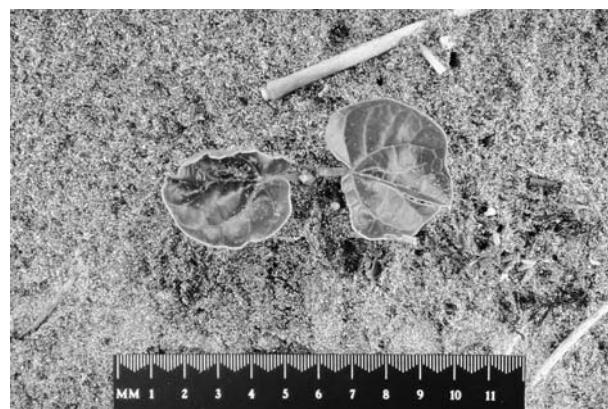


Fig.3 *Canavalia lineata*.

## 引用文献

- 圓谷昂文・鈴木明彦. 2014. 北海道天売島における暖流系岩礁性巻貝イシダミの出現. 漂着物学会誌 12: 51-52.
- 森 邦彦. 1952. 飛島にグンバイヒルガオを得た. 植物研究雑誌 27: 336.
- 森 邦彦. 1954. 飛島にハマナタマメを得た. 植物研究雑誌 29: 159.
- 中西弘樹. 1987. グンバイヒルガオとハマナタマメの分布と海流散布. 植物地理・分類研究 35: 21-26.
- 中西弘樹. 2008. 海から来た植物. 319pp., 八坂書房, 東京.
- 中西弘樹. 2011. グンバイヒルガオの海流散布の現状とその分布拡大. 植物地理・分類研究 58: 89-95.
- 鈴木明彦. 2008. 北海道望来海岸への暖流系岩礁性巻貝レイシガイとイボニシの漂着. 漂着物学会誌 6: 3-24.
- 鈴木明彦. 2010. 北海道厚田沿岸への暖流系岩礁性巻貝レイシガイの漂着. 漂着物学会誌 8: 25-26.
- Suzuki, A., Enya, T. and Togo, Y. 2012. Northward expansion of the warm-water chamid bivalve *Chama cerinorhodon* in the northern Japan Sea. Jour. Jap. Drif. Soc. 10: 23-26.

(Received Aug. 5, 2016; accepted Sep. 8, 2016)

<sup>1</sup> 亜熱帶植物研究所 〒851-2130 長崎県西彼杵郡長与町まなび野2丁目29-4

<sup>1</sup> Subtropical Botanical Institute, 2-29-4 Manabino, Nagayo-cho, Nishisonogi-gun, Nagasaki Prefecture 851-2130